

がん検診のあり方に関する検討会 議論の整理概要

これまで基本計画に基づき、がんの早期発見を目指し、受診率の向上や精度管理等に取り組んできた。これまでの現状と課題を踏まえ、今後のがん検診のあり方について議論を行い、平成28年11月に「議論の整理」を提示した。

現状と課題

➤ わが国におけるがん検診の受診率

- 国は、平成28年までに受診率を50%とすることを目標として、受診率向上施策を実施してきた。
- 平成25年の受診率は、37.9%~43.4%となっている。等

➤ 科学的根拠に基づくがん検診の実施及び精度管理

- 市町村がん検診の一部に、科学的根拠に基づかない検診が実施されている。
- がん検診の精度管理ため精密検査受診率の向上が必要だが、がん対策における目標値が定められていない。等

➤ 市町村におけるがん検診の受診率及び算定方法

- 市町村がん検診の受診率が低い要因として、普及啓発の不足や、利便性への配慮が十分でないことがある。
- これまでのがん検診の受診率は、同じ条件で市町村間の比較を行うことができない。等

➤ 職域におけるがん検診の質の向上等

- 職域におけるがん検診は、実施者により検査項目や対象年齢など、実施方法が異なる。
- 職域におけるがん検診には、統一的なデータフォーマットがない。等

今後の方向性

- 受診率向上に繋がる対策を講じ、一層の向上に努める。
- 第3期基本計画では、現在の50%よりも高い目標を設定するべきである。等

- 都道府県や市町村は、科学的根拠に基づいたがん検診の実施と、精度管理に取り組むべきである。
- がん対策における精密検査受診率の目標値を、90%とすべきである。等

- 市町村は、受診手続きの簡便化や、職域のがん検診との連携、対象者名簿に基づく個別の受診勧奨・再勧奨、特定健診とがん検診の同時実施等の受診率向上施策に取り組む。
- 市町村がん検診の受診状況について、市町村間で比較可能な指標を定め、これを公表する。等

- 職域におけるがん検診に対し、実施者が参考にすべきガイドラインを策定する。
- 職域を含めた国全体のがん検診データを把握するための仕組みについて検討するべきである。等